

令和5年度 第4回浦安市不登校特例校設置検討委員会 議事要旨

令和6年3月26日承認

- 1 開催日時 令和5年12月26日(火) 午前9時30分から午前11時00分
- 2 場 所 浦安市文化会館3階中会議室
- 3 出席者 (委員)藤川委員長(千葉大学教授)、大友委員(浦安中学校校長)、丸山委員(東小学校校長)、槇副委員長(教育総務部部长)、鈴木委員(教育総務部次長)、福島委員(生涯学習課課長)、小池委員(教育政策課課長)、泉澤委員(教育施設課課長)、落合委員(学務課課長)、石川委員(指導課課長)、佐瀬委員(教育センター所長)
(オブザーバー)千葉県教育振興部児童生徒安全課いじめ対策室職員2名
(事務局)指導課職員3名、教育センター職員1名、物流科学研究所職員1名
- 4 傍聴人 4名
- 5 次 第 (1) 第3回不登校特例校設置検討委員会の議事録の確認について
(2) 「(仮称)浦安市不登校支援基本方針」(案)について
(3) 浦安市学びの多様化学校(不登校特例校)について(非公開)
(4) その他
- 6 議事の概要
(1) 「(仮称)浦安市不登校支援基本方針」(案)について事務局より説明した。
(2) 浦安市学びの多様化学校(不登校特例校)について事務局より説明し確認を行った。(非公開)
(3) 今後の予定について事務局より説明を行った。

7 会議経過

- (1) 「(仮称)浦安市不登校支援基本方針」(案)について事務局より説明した。

<質疑・意見>

基本方針(案)の基本理念の「寄り添う」、「自立を助ける」の行動の主体は市となるが、「人や社会とつながる」は、主体が変わってくると思う。また、方向性の「不登校にしないための取組」の記載については、視点1(未然防止)に「通いたいと思える魅力ある」と記載があるように、「登校に意欲が持てるような取組」等の前向きな言葉に変更するのはどうか。

<回答>

行動の主体、対象になる方を考えながら、本市の基本的な考え方を整理してきている。前は「人と社会をつなげる」としていたが、「つなげる」という言葉に強制感が出ているのではないかとご意見もいただいたので、今回変更した。

<意見>

「人と社会のつながりを支援する」等、言葉の表現方法を変えることで、柔らかくなるのではないかと。

<意見>

基本的には、「全員学校に行きたくて欲しい」という願いがあり、その取組をしている一方、子どもが主体的に自分の生き方を選ぶという考え方も尊重することが必要だと思う。基本方針(案)の大幅な修正は不要であるが、「子どもが意志を持って行きたい学校を作ること」、「意志があっても行きにくい子どもには、行きやすい支援をしていくこと」、「学校に行きたくない子どもには、別な支援をしていく」という姿勢で見直すことが必要と思われる。大人側の発想ではなく、子ども自身の意志等を大事にするとよい。

<質疑>

浦安市は、地域と学校が連携する地域コミュニティ・スクールを次年度一斉に小中学校に導入し、複雑化する学校の課題について、社会と一体になり地域全体で対応する予定である。パブリックコメントの中にも関係するご意見があったが、学びの多様化学校でも、地域と連携して行う部分についてどう考えているか教えて欲しい。

<回答>

パブリックコメントの中に、その様な意見があることは確認している。市の方針と連動した活動にすることは大切で、教育課程など具体化していく中で検討していく。

(2) 浦安市学びの多様化学校（不登校特例校）について事務局より説明し、確認を行った。

(3) 今後の予定について

事務局から連絡事項を伝え、閉会。

問い合わせ先

教育総務部指導課(教育センター) 担当 鷲澤 康弘

電話 047-381-7961